

B型肝炎ワクチン予防接種のお知らせ

【対象者】

0歳児 ※1歳～有料

※標準接種年齢は生後2か月～9か月です。

※1歳になると定期接種の対象外（有料）となります。



- 注1) 母子感染予防として、出産後にB型肝炎ワクチンの接種を受けたことがある方は、定期予防接種の対象外となります。保険適用で接種を進めてください。
- 注2) 定期の予防接種が開始される前に、既にB型肝炎ワクチンの接種を受けた対象者については、定期接種に規定された接種を受けた者とみなします。ただし3回の接種を終了していない場合は、残りの回数については定期接種の対象となります。

【接種回数】

27日以上の間隔をおいて2回接種した後、第1回目の接種から20週以上の間隔をおいて3回目の接種を行います。

※3回目の接種が1歳以上になる場合は、定期接種の対象外となります。

【接種場所】 指定医療機関

【持参する物】 母子手帳・予診票

<注意事項>

- ※必ず医療機関に予約をしてください。
- ※受診前に裏面の注意事項等をお読みください。



【主な接種医療機関】 接種の際は必ず予約が必要です。

医療機関名	電話番号	医療機関名	電話番号
県立大島病院	52-3611	みんなの診療所	62-5010
奄美中央病院	52-6565	政小児科内科医院	52-0017
朝沼クリニック	52-0337	ファミリークリニックネリヤ	57-7177
記念クリニック	55-2271	むかいクリニック	55-1777
かずや内科	53-6020	笠利病院	55-2222

★一部の医療機関を掲載しています。
他の医療機関を希望される場合は、お問い合わせください。

◎B型肝炎とはどんな病気・・・

B型肝炎は、B型肝炎ウイルスの感染による肝臓の病気です。B型肝炎ウイルスの感染を受けると、急性肝炎となりそのまま回復する場合もあれば、慢性肝炎となる場合もあります。一部劇症肝炎といって、激しい症状から死に至ることもあります。

また、症状としては明らかにならないままウイルスが肝臓の中に潜み、年月を経て慢性肝炎・肝硬変（肝臓の細胞が大きく壊れてしまう）・肝がんへ進行することもあります。

ことに年齢が小さいほど、急性肝炎の症状は軽いか症状はあまりはっきりしない一方、ウイルスがそのまま潜んでしまう持続感染（キャリア）の形をとりやすいことが知られています。

感染は、肝炎ウイルス陽性の母親から生まれた新生児、肝炎ウイルス陽性の血液に直接触れたような場合、肝炎ウイルス陽性者との性的接触などで生じます。

◎B型肝炎ワクチンとは・・・

小児の場合は持続肝炎を防ぎ、将来発生するかもしれない慢性肝炎・肝硬変・肝がんの発生を防ごうとすることが最大の目的です。

ワクチンを接種することで、体の中にB型肝炎ウイルスへの抵抗力（免疫）ができます。

乳幼児にB型肝炎ワクチンを接種すると、強い免疫が獲得できることが分かっています。

免疫ができることで、一過性の肝炎を予防できるだけでなく、キャリアになることを予防でき、まわりの人への感染も防ぐことができます。

★各種定期予防接種について



予防接種前の注意事項について

接種を受けることができないお子さん	接種を受ける際に注意が必要なお子さん
①明らかに発熱（通常37.5℃以上）をしている場合 ②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかなお子さん ③その日に受ける予防接種の接種液に含まれる成分で、アレルギーを起こしたことがあることが明らかなお子さん ④その他、医師が不適当な状態と判断した場合	①心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気や発育障害などで治療を受けているお子さん ②予防接種で、接種後2日以内に発熱のみられたお子さん及び発疹、じんましんなどアレルギーと思われる異常がみられたお子さん ③過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがあるお子さん ④過去に免疫不全の診断がなされているお子さん及び近親者に先天性免疫不全症の方がいるお子さん ⑤ワクチンの製造過程における培養に使用する卵の成分・抗生物質・安定剤などでアレルギーがあるといわれたことのあるお子さん



接種後の注意点

- ① 予防接種を受けた後30分程度は、急な副反応が起こることがまれにあります。医療機関でお子さんの様子を観察するか、医師とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。
- ② 接種後、1週間程度は副反応の出現に注意しましょう。
- ③ 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすことはやめましょう。
- ④ 当日は、激しい運動は避けましょう。
- ⑤ 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。

接種後に起こるかもしれない体の変化

- 接種箇所が赤くなったり、腫れたり、しこりができたり、痛みを感じたりすることがあります。
- 注射したところだけでなく、熱が出たり、刺激に反応しやすくなったりすることがあります。
- いつもより機嫌が悪くなったり、ぐずったり、眠そうにしたりすることがあります。
- 極めてまれに、アナフィラキシー、急性散在性脳脊髄炎などの重い病気にかかることがあるといわれています。

種類	対象年齢及び注意事項	
ヒブ 小児用肺炎球菌	生後2か月以上5歳に至るまで	接種開始時の月齢によって接種回数が決まります。
BCG	生後1歳に至るまで	標準接種年齢は生後5か月～8か月です。
四種混合 三種混合 ポリオ（不活化）	生後3か月以上7歳6か月に至るまで ●ポリオ生ワクチンを2回受けた場合は、不活化ポリオは受けない ●三種混合・ポリオ未接種の場合は、四種混合で接種	1期初回：20日～56日の間隔で3回接種します（注1）。 1期追加：1期終了後、1年（12～18月）あけて1回接種します（注2）。
MR（麻しん・風しん混合）	1期：1歳～2歳に至るまで 2期：就学1年前	麻しん又は風しんに罹患した場合にもMRを接種できます。
水痘（水ぼうそう）	1歳から3歳に至るまで	3か月以上の間隔をあけて2回接種します。 ※水痘にかかった場合は、受けることは出来ません。
日本脳炎	1期：生後6か月～7歳6か月に至るまで 2期：9歳以上13歳未満の者	1期初回：6日～28日までの間隔で2回接種 1期追加：1期終了後おおむね1年（11月～13月）あけて、1回接種します。（注2） 2期：9歳以上で1回接種します
二種混合（ジフテリア・破傷風）	2期：11歳以上13歳未満	指定の日時に接種します。 小6に通知しますが、13歳未満の中学生も接種できます。
子宮頸がん	小6～高校1年の女子 ※2種類のワクチンがあり、同じワクチンを3回接種する。	H25年6月15日から子宮頸がんワクチンは積極的に勧めていません。接種を希望される方はお問い合わせ下さい。

★各予防接種は、対象年齢を過ぎると任意接種（有料）となります。ただし、長期にわたって療養を必要とする疾病にかかったこと等により定期の予防接種の機会を逸した方については、接種できる場合がありますのでお問い合わせください。

※ 四種混合、三種混合、ポリオ、日本脳炎の1期追加は1期初回終了後から6か月以上あけると接種することが出来ます。



＜お問い合わせ先＞ 子ども子育て応援課 予防接種係 ☎：69-4555